

森有礼、太宰府小学校を訪問

太宰府尋常小学校(現太宰府小)では明治23年(1890年)1月13日、新校舎の落成式が執り行われました。参加者には棟上げの餅や神酒がふるまわれ、オルガン演奏、祝辞朗読、生徒による君が代斉唱等々盛りだくさんの式次第。町でもこの日は皆、家職を休んで祝酒、学校の内も外もたいそう賑わいました。さて、祝辞で県書記官の山崎忠門は思い返します。「曩に故森文部大臣の本校に臨まるに当たり、忠門、其の隳壞せるを見て慨嘆すること久し」

〔太宰府尋常小学校沿革誌一〕
実はこれより3年前の1月9日、古い校舎に文部大臣森有礼が視察に来たのでした。

森は弘化4年(1847年)、薩摩藩士森喜右衛門の五男として生まれます。早くから西洋の学問に触れていた彼は元治2年(1864年)、藩派遣の留学生としてイギリスに渡り、ロシア・アメリカを遊学。帰国後は新政府の下で外交活動を展開しますが、伊藤博文に学政方面の才能を買われ、明治17年4月文部省御用掛に。そして翌年12月には初代文部大臣として第一次伊藤内閣に入閣。当時伊藤は45歳、森39歳。近代的教育制度の全面改革という大仕事に着手します。

ところで、明治18年から21年にかけて、森は精力的に各地の学校の視察を行っています。太宰府小を訪れ

太宰府人物志

資料室だより 59

たのは、同19年12月から翌年3月の九州・沖縄地方70日間巡視の時のこと。巡視の際、森は、学校教育における体操や唱歌の重要性を力説し、運動会の普及に力を入れました。残念ながら森が太宰府小で何を見聞きし、何を伝えたのか詳しいことは分かりませんが、当時の新聞によると他の小学校では「文部大臣は自ら生徒の手を取り懇々運動の仕方を教授」した等の報道があり(「福岡日日新聞」)、彼の熱心さがうかがわれます。

森の訪問の影響か、太宰府小では彼が訪問した翌年から運動会の開催が始まり、明治21年4月には北谷のソイラで春季運動会が開かれます。2年目以降は春と秋の年2回、六本松越や針摺野、大原山などの郊外で、生徒たちが体操や遊戯を披露しました。

明治22年2月11日、大日本帝国憲法発布の日に森は刺され、翌日亡くなります。この事件は太宰府小にとつても大きな衝撃だったことでしょう。森の視察以来ずっと、その校舎がますます古びていく有様を苦く悔しく思っていた山崎県書記官は、落成式当日、堂々たる新校舎に對峙し「区画・按排いよいよ其の宜に適す、蓋し尋常小学校に於ては是を以て巨擘とす」とこ満悦だったわけです。